

診断京都

一般社団法人 京都府中小企業診断協会

No.101
2012年冬号



近畿ブロック会議開催

平成24年11月28日（水）、13時から17時まで、京都タワーホテルで近畿ブロック会議が行われました。福井、滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫の7府県の協会会長ら15名と本部の会長、専務理事ら3名、京都協会会員4名（オブザーバー）が出席しました。

ブロック会議とは、全国を8ブロックに分け、毎年10月から11月にかけて各ブロックで当該府県協会の会長等と本部役員の間で報告と意見・情報交換等交わすもの。

会議は定刻13時、京都協会中村副会長の開会宣言で始まり、京都協会会長挨拶、本部会長挨拶、出席者の自己紹介に続いて、主に次のような内容で進められました。

1. 本部からの報告と質疑応答

①経営力強化支援法関連

「できるだけ多くの会員に認定を受けて欲しい」

②小さな企業未来会議関連

「中小零細企業にとって診断士の専門性が分りやすいように情報発信してほしい」

2. 各府県協会からの活動報告と質疑応答

①法人化の現状と課題

②診断士の活動分野拡大事業について

③診断士の資質向上を

目指した人材育成について（具体的な方策等について）

④その他（府県協会の役割、存在意義など）

3. その他

ブロック会議は、本部理事のいる京都、大阪、兵庫以外の県協会にとって本部や各府県情報を収集・交換できる貴重な場となっていることから、本部の出欠に関わらず年に複数回開催することが提案され、合意された。半年後の平成25年春、大阪で開催される。

会議後の懇親会では新たに4名の当協会会員も加わり、活発な交流、歓談が行われました。（山脇康彦）



中小企業経営診断シンポジウム、17年ぶりに大阪で開催

平成24年度の中小企業経営診断シンポジウムが、11月7日に大阪国際会議場で開催されました。大阪での開催は17年ぶりで、500名を越える参加者が出席しました。

福田尚好・社団法人中小企業診断協会会長の開催挨拶に続いて、小林利典・近畿経済産業局長よりの来賓挨拶の後、太田義勝・コニカミノルタホールディングス取締役会議長による「経営統合による事業強化」についての基調講演が行われました。

企業の統合によって経営資源を大きくすることや、国内0へのこだわりを薄くすることなど、事業強化を成功させる要点が貴重な経営者自身の言葉として語られました。診断士への期待は、経営資源の組み上げは企業の側で行うことだが、企業の成り立ちから実態を把握できる診断士がいれば大きな力になると述べられました。

午後からは、第1分科会「中小企業診断士



による経営革新支援事例論文発表」、第2分科会「診断協会各県協会および会員グループによる調査・研究発表」、第3分科会「近畿発！元気の出る成功支援事例発表」の3つの分科会が開かれました。

第3分科会では、近畿ブロックの2府5県を代表しての発表が順次に行われ、京都からは、当協会の山本知美氏が「京都府北部地域における総合建設業の生き残りをかけた経営改革」について発表しました。テーマは、新分野進出を検討する企業は多いものの実行に至るケースが少ない中、従来の主要市場である官公庁から、地域の一般顧客にターゲットを移す事業に挑んだ総合建設業の経営改革。京都府北部地域の実状や、「特需信仰」がドミナントロジックとなり改革が阻まれる建設業界の特質などを説いた上で、支援のプロセスについての説明が丁寧に加えられ、会場に詰めかけた聞き手にとって役立つ明解な発表でした。

他の発表も、観光、食品、農業、建設など様々な分野で、地域に深く繋がる経営支援を行う診断士の活躍を知ることができる有意義なものでした。（松井宏次）

京都工芸繊維大学発ベンチャー企業との経営研究会開催

平成24年度の産官学連携事業の一環として、京都市左京区の京都工芸繊維大学発のベンチャー企業3社との経営研究会を行おうという企画を立てました。

工芸繊維大学発のベンチャー企業は19社ありますが、今回は窓口の創造連携センター特認教授の行場先生のガイダンスにより、以下の3社と年度内に研究会を開催することとしました。



京都工芸繊維大学創造連携センター特認教授 行場先生からの挨拶

<第1回経営研究会>

- ・研究会：平成24年9月4日(火) 18時～19時30分
- ・場所：京都工芸繊維大学創造連携センター2階プレゼンルーム
- ・懇親会：同日19時30分～21時
- ・場所：ゲストルーム
- ・企業：株式会社 魁半導体
(京都市下京区西七条御前田町50)
- ・事業内容：液体ソースを用いた堆積装置、表面改質装置等を含むプラズマを用いた各種半導体製造装置の開発及び製造販売
- ・代表取締役：田口貢士氏



魁半導体 田口社長からのプレゼン

第1回「大学発ベンチャー企業経営研究会」に参加して

大学発ベンチャーとの第1回研究会に参加しました。創業者のプレゼンでは起業の紆余曲折が生々しいエピソードとともに披露された一方、懇親会ではタイプの違う複数の経営者の方と交流でき、有意義な時間を過ごしました。

本研究会は、私のような企業内診断士も気軽に参加しやすい雰囲気があります。平日夜に大学のオープンな場で、多様な専門分野や業界の立場から双方向に討議できること、世代や感性に近い起業家の方が登場されることなどが理由でしょう。今回は普段私が関わっている半導体分野の企業だったこともあり、議論や交流に深く入り込むことができました。

京都は人口当り大学数が政令市で最も多く、「10人に1人は大学生」と言われます。人材や才能の新陳代謝が活発な大学とのコラボは、新たな診断需要を次々と産み出す可能性を秘めています。京都にある当協会ならではの新事業機会として、より多くの大学を巻き込む活動へ発展させたいと願います。(片山 琢磨)

<第2回経営研究会>

- ・研究会：平成24年11月16日(金) 18時～19時30分

- ・場所：京都工芸繊維大学創造連携センター2階プレゼンルーム
- ・懇親会：同日19時30分～21時
- ・場所：学内食堂
- ・企業：株式会社 エマオス京都
(京都市右京区西院西田町26)
- ・事業内容：モノリス型 エマオス京都 石塚社長からのプレゼンポリマーの開発、製造、応用展開
- ・代表取締役：石塚紀生氏



第2回「大学発ベンチャー企業経営研究会」に参加して

同年代でありながら先端技術の研究者かつ起業家として活躍されている石塚社長のお話を聞きたいという動機で、第2回研究会に参加しました。講演では、研究・事業内容、会社設立までの経緯、経験談に加え、実際に開発した商品サンプルまで見せて頂きました。

顧客企業を探す際、海外企業は実際交渉する相手に意思決定権があり、比較的商談がまとまりやすい一方、日本企業は担当者レベルとの交渉では好感触でも、意思決定までの期間が長く、最後の段階でひっくり返る場合があるという話を伺いました。私は日本の製造業に勤務する企業内診断士ですが、その意見に納得する反面、一度取引が決まり信頼関係ができると、日本企業は急に取引を中止せず中長期的な付き合いが可能という長所があるため、残念だという感想を持ちました。

技術を保有するベンチャー企業と経営ノウハウを保有する中小企業診断士が連携し、日本企業へアプローチ、そして競争力ある製品をMade in Japanで事業化。本研究会は、その足掛かりとなる可能性を秘めた試みではないでしょうか。

(東 和男)



参加者の皆さんの真剣な表情

<第3回経営研究会告知>

- ・研究会：平成25年2月 18時～19時30分 予定
- ・場所：京都工芸繊維大学創造連携センター2階プレゼンルーム
- ・懇親会：同日19時30分～21時
- ・場所：学内ゲストルームまたは食堂
- ・企業：ウィンドナビ株式会社
(京都市左京区岩倉池田南町72-1)
- ・事業内容：業務厨房用省エネ空調機器の開発、製造、販売
- ・代表取締役：金谷嘉明氏

京都式ソーシャルビジネス 伴走支援事業

地域住民が主体的に参加し、地域力再生（雇用の拡大や地域づくりなど）につながる諸活動について、自活継続する力強い活動を作り出し、京都式ソーシャルビジネスとして育成するため、平成24年度、京都府商工労働観光部の中に、ソーシャルビジネスセンターが設置されました。実施事業には交付金等事業、人材育成事業、個別伴走支援事業（*1）、普及啓発事業（*2）等があります。

私たち中小企業診断士は「個別伴走支援事業での助言」と「普及啓発事業でのセミナーの講師」を主に担当しています。

11月末時点で6案件の支援が終了し、商品企画、販路開拓等についてアドバイスを行いました。支

援第1号案件は、一般社団法人木津川市観光協会の地域おこし事業で、地元産品を活用したお弁当の開発で、来年春の商品化を目指しています。

*1. 個別伴走支援事業

ボランティアサークル、NPO法人、町内会、老人クラブ、婦人会などを対象に、ビジネス化、販売促進、広報、販売戦略、商品づくり、パッケージ等について、現地へ出向いて助言します。派遣回数は、原則として1団体同一テーマにつき1回です。

*2. 普及啓発事業

地域力再生活動を行っている、あるいは行おうとしている団体等を対象に、雇用の拡大や地域づくりにつながるビジネスモデルや具体的な取り組みを、セミナー等を通して効果的に発信し、普及・啓蒙します。（山脇康彦）



経営革新支援研究会

（企画メンバー岡原慶高、松野修典、坂田岳史）

経営革新支援研究会では、10月8日（月・祝日）に京都文教大学産業メンタルヘルス研究所様主催で京都協会所属の中小企業診断士を対象に米国経営コンサルタントによる「コーチング」研修を実施しました。前日には臨床心理士の方を対象に有料で同様のセミナーを開催されており、今回特別のご配慮で診断士向けには無料で開催していただきました。

講師の米国経営コンサルタントは、バーナード・ガートラー、ロビン・スティーヴンス、サリィ・ヴィグトゥの3人の先生で、アメリカで組織心理コンサルティングを行っているニューヨーク・ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所に所属されています。



研修は、通訳を介して行われ、今までにあまり経験し

たことの無い研修スタイルでした。内容はコーチングに関する知識についての講義と、参加者



がグループになり、各グループに講師と通訳が付いてのディスカッションが行われました。また「左手・右手の演習」というエクササイズでは、最近自分が直面した難しい問題に対して、メモの右側には実際の会話等を書き、左側には考え感じていたが口にできなかったことを書くというを行い、ある場面で自分の心がどのように動いているのかを体感するようなものでした。さまざまな聞きなれない専門用語や通訳を介してということもあり、難しい場面もありましたが、米国の経営コンサルタントの研修という貴重な経験となりました。

経営革新支援研究会では、協会会員の皆さまにお役に立てる情報発信や人脈形成、さらには会員相互の理解を目的に、勉強会を行っています。協会会員の方はどなたでも自由に参加していただけますので、ぜひ奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。（岡原慶高）



経営者育成大学研修会のご紹介



当協会には、経営者育成大学研究会（事業対応型研究会）があり、研究会の活動として公益財団法人京都産業21様と共催で若手経営者及び後継者向けの「経営者育成大学研修会」を実施しています。（今年で4年目です）今年度も7月7日から10月14日まで、合宿研修会を含む全12コマの講義を行いました。受講生の満足度も非常に高く、来年度も実施する予定です。

この研修会の特徴は、特に中小企業の指導実績が豊富な協会会員が講師となり経営者に必要なリーダーシップの発揮方法から、経営戦略の策定法、経営管理手法、営業・マーケティング管理、財務管理、人事労務管理、IT経営、及び事例を用いたケース研修まで、机上の理論だけでなく実践的なノウハウを伝授するというもの



です。また、研修会の最初と最後は合宿形式で行い、講義の後は受講

回	テーマ
1 (合宿)	オリエンテーション
	リーダーシップ①
	リーダーシップ②
	リーダーシップ③
2	経営戦略策定・実行
3	財務と会計管理の実態
4	営業・マーケティング戦略
5	人材マネジメント
6	IT活用の計画と実践
7	経営革新の進め方と 京都府の支援策
8 (合宿)	ケーススタディ

生同士が懇親する場も設けてあります。（合宿研修会場は、亀岡烟河と京都府ゼミナールハウス）毎年合宿研修会の懇親会は盛り上がり、ここで受講生同士の連帯感も生まれています。

また、本研修会のもう1つの特徴は、研修会が終わった後も受講生同士で同窓会組織を作り定期的な勉強会などを行っていることです。2期生は「練成会」、3期生は「絆永会」という名称でそれぞれ活動をされています。今年度の4期生も最後の合宿研修会で3名の幹事が決まったので、今後活動をされていくでしょう。

現在はそれぞれの期生で活動をされていますが、来年度からは経営者育成大学卒業生全てを対象に「京都経育大同窓会」という名称で、総合的な活動をされる計画です。このような活動に、京都産業21様や当協会も積極的に支援していきます。

なお、先にも述べたように本研修会の講師は、企業の指導実績が豊富な会員が講師を務めますが、合宿研修ではサブ講師を設けており、こちらはこれから講師の実績を積みたい方を対象にしています。これから経験を積みたいという方がおられましたら、来年度ぜひ経営者育成大学研究会にご参加ください。お待ちしております。

(坂田岳史)



平成24年度 理論政策更新研修開催

中小企業診断協会京都支部主催の平成24年度理論政策更新研修が、7月29日（日）と10月6日（土）の計2回新都ホテルにて開催されました。

7月29日には前半を京都府副知事の太田昇氏より「明日の京都 未来に向かって」というテーマでご講演いただきました。講演では、日本の課題や地方自治の現状についての解説を始め、京都府の現状と府政運営の指針となる「明日の京都」の基本理念や具体的な産業振興と事業内容、今後のグローバル展開等について詳細なご説明を頂きました。後半は支部副会長の坂田岳史会員より、「中小企業の最新IT活用支援 ～ソーシャルメディアの活用と診断士の役割～」について、フェイスブックを中心とした



ソーシャルメディアについてその特徴やビジネスのパターン、具体的な活用方法について

事例を交えてわかりやすく解説頂きました。

10月6日の前半には、京都市産業観光局 局長 白須正氏より「新しい中小企業政策」についてご講演を頂きました。京都市で取り組まれている中小企業政策についての最新情報が紹介頂き、その幅広い内容を改めて確認することができました。後半は支部副会長の中村久吉会員より、「BCP中小企業の事業継続」と題し、非常事態にあつて事業を継続することの困難さとそれに対する備えの大切さをBCP策定プロセスとともに詳しく解説して頂きました。

両日を合わせて200名を超える方がご参加され、受講者の皆様は熱心に聴講されていました。

(杉村麻記子・足立早恵子)

商店街視察ツアー日記

古川町商店街

古川町商店街は京都市東山区にあり三条通から四筋目の通りに至る約200メートルの小さな商店街です。その歴史は古く、かつては京の台所、錦市場に対し「東の錦」と呼ばれ賑わいました。

江戸時代、三条通は東海道であり、京の玄関口である当地は知恩院の門前町として食料品、日用品が商われており、東は天津・山科、北は北白川・八瀬・鞍馬方面からの来客があり、その賑わいは明治、大正、昭和と続きました。

往時の繁栄ぶりを知る80代の商店主に聞いたところ、彼が結婚して間もない頃は昼食もろくに取れないほどの忙しさだったようです。買い物かごを持った主婦が通りを埋め尽くし、八百屋や魚屋の威勢のいい声が響き渡る当時の光景が目には浮かびます。

私がこの商店街を初めて訪れての率直な感想は、「なぜ今の時代に京都市内でこのような商店街が生き残っているのだろうか」でした。通りの幅は大人三人が並んで歩くには厳しく、アーケードが日差しを遮って昼間でも薄暗い。業種構成は肉屋、八百屋、魚屋に惣菜屋を加えた生鮮四品の店中心。商売のや

り方が40年前からほとんど変わっていないのではないと思われる店も多く、まさに昔の市場そのものの。

さすがに八百屋の天井から釣銭を入れたザルがぶら下がっていたり、樽に山盛りの味噌が何種類も置いている味噌専門店はありませんが、今に至るまで昭和の時代を色濃く残した商店街がシャッター街にならずに生き残ってきたことに驚きます。

おそらく歩いて通えるほど近くにスーパーが店舗していないこと、商店街に食品や日用雑貨がひと通りそろっており地域の生活を支える機能を保持し続けたこと、生活道路としてある程度の人通りがあることがその原因でしょう。

しかし、今や商店主の平均年齢が70歳を超え、顧客も商店主と同年代のお年寄りが中心となるなど、商店街としての将来は決して楽観できるものではありません。古川町商店街の良さを残しながら時代に合わせて変わることが早急に求められています。

実際、空き店舗となった古民家を改装した宿が新しくできるなど街は少しずつ変わってきており、街の再生に期待が持てます。(小西正伸)

ひまわりの会より④ ～「おひとり様」向けサービス～

内閣府による2012年度版「子ども・子育て白書」によると、2010年時点での日本人の生涯未婚率は男性が20.1%、女性が10.6%。つまり、男性の5人に1人、女性の10人に1人が50歳時点で一度も婚姻したことがない状態だそうです。1980年時の生涯未婚率は男性が2.6%、女性が4.5%だったことを考えると、この30年で男女とも生涯を未婚で過ごす人が大幅に増加していることがわかります。

こうしたライフスタイルの変化は、当然消費生活にも大きく影響を与えます。「一人焼き肉」「一人ラーメン」「一人カラオケ」…。いわゆる「おひとり様」を対象とした商品やサービスが多々登場し、人気を集めているのもその一端と言えるでしょう。20歳から49歳までの女性900人を対象にしたあるアンケートによると、一人で映画館に行ったことのある人の割合は40代が50.0%、30代が42.0%だそうです。また、ラーメン屋についても40代が40.0%、30代が33.3%と、多くの女性が一人で行動している実態が明らかになっています。そのため、一人用の個室を有する焼き肉店、カウンター席に仕切りがあるラーメン店など、「おひとり様」が他者の目を気にすることなく、一人でも快適に過ごせる飲食店などが増えてきました。

しかし、「おひとり様」を楽しみたい消費者の関心は、今やそのような身近な飲食店などには留まりません。インターネット検索サイトGoogleによると、2011年度には旅行形態を表す検索キーワードとしては「女 一人旅」が前年比74%増だったそうです。行先も都市部の観光地など一人で行きやすいところだけでなく、温泉や海外のリゾート地といった従来であれば複数で行くのが当たり前と思われていた場所が対象となっています。

このような需要をけん引しているのは30～40歳代の独身女性たち。若いころから国内外を問わずさまざまな場所を訪れ、旅慣れしている人たちです。その中でも実家で両親とともに暮らしている人は、その3割が生活費を全く負担していないという調査結果もあり、たとえ収入自体は多くなくても極めて高い可処分所得を有しています。

旅行サイトの調査によると、こうした女性たちが一人旅をする理由として最も多かった回答は「一人で自由に行動したい」、次いで、「行きたいところが自分だけの好みだった」だそうです。つまり、だれにも煩わされることなく、自分の好きなところに行きたいというのが彼女たちのニーズです。

旅の目的は、日ごろのストレスを解消し、活力を取り戻すことで、そのため旅のキーワードとなるのは「自由」「快適」。一人旅というと、バックパックを背負って安価な宿に泊まるというようなイメージがあるかも知れませんが、一人旅だからこそ贅沢に過ごしたいというのが「おひとり様」なのです。

こうした要望に応じて、数年前からハイクラスのシティホテルやリゾートホテル、温泉旅館などでも「おひとり様」向けの宿泊プランを提供するところが増えて来ました。また、海外旅行でも一人参加を前提としたツアーが数多く企画されています。そして、それらの内容は、国内外を問わず、エステや高級ディナーなどをセットにして優雅な時間を過ごしてもらおうというものがほとんどです。

ただし、いくら他人に煩わされたくないと言っても、旅先での感動を分かち合える人がいないのは少しさびしいものです。そこで、特に海外旅行のツアーなどでは、参加者同士が交流できる企画などを用意し、それをセールスポイントにしているものもあります。オプションツアーなどのバスで隣り合った相手とその場限りの会話を楽しむなどにより孤独感を軽減させると同時に、参加者は一人で行動したい人ばかりですから、一緒にいたくなければ遠慮なく断れるのが最大のメリットでしょう。

このようなツアーの実現により一人旅へのハードルが下がり、一人でどこへでも行くという旅慣れた強者でなくても気軽に一人で海外に行けるようになりました。つまり、これまでなら「おひとり様」でなかった層も「おひとり様」の仲間入りが手軽にできるようになったのです。

とはいえ、温泉旅館などでは未だに女性の一人客をトラブルメーカーとして敬遠する傾向が残っていることなどもあり、まだまだプランやツアーの絶対数は少なく、料金も割高なのが実情です。しかし、「おひとり様」の増加に伴い、事業者の意識も変化してきており、今後はサービスがさらに拡大するものと思われます。

ちなみに、あるWebサイトのアンケートによると、30～40歳代の独身女性の8割は「いずれ結婚したい」という願望を持っているそうですが、そのうちの半数程度は「今すぐは結婚したくない」のだとか。その是非はともかく、このことから不況下にあっても「おひとり様」向け市場にはまだしばらく追い風が吹いていると言えるでしょう。

(足立早恵子)

はんなり診断士



中村 久吉
(なかむら ひさよし)

経営システム中村研究所代表

Q1. まずは中村先生の専門分野をお聞かせください。

私は器用貧乏で、やれと言われれば何でも食いつくことをモットーとしていた時期もありました。専門分野を持たないジブシーみたいな人種ですが、戦略論や組織論が専門になります。ビジネスモデルの再構築や組織の存続と活性化に寄与する仕組みの構築です。そのツールが、プライバシーマーク審査や情報セキュリティ審査を通じたマネジメントシステムの定着推進であり、IT経営の推進やBCP（事業継続計画）策定支援です。

Q2. 休日はどのようにお過ごしですか？

会社勤めを辞めてから休日と平日の境目が曖昧になってますが、

①休息の日と決めてゴロゴロ

歳と共に体力や気力が衰えているので、これは必要です。

②その時々々の興味にあった周辺調査（フィールドワークや屋内活動）

私が興味を失ったときは人生を終えるときです

ので、この比重は高いですね。

③家族サービスで家内のお供

古い人間で家内孝行をしてこなかった報いですので、私の義務です。ハイ。

④誘われて観光へ

昨年、子供が長野県の方に就職したので非常にシバシバ呼び出されて山登りみたいなことをさせられています。

Q3. ご趣味は何ですか？

中学生だった頃に家にあった“7球スーパーラジオ”なるモノを分解した事に始まり、20歳前後の数年間を除いて半田ごてを握ってきました。鉛板を埋め込んで重量が60kg程度あるレコードプレーヤの製作やモノラルパワーアンプ8台を核にした4チャンネル・マルチアンプシステムの製作等、結構楽しい思い出(?)があります。

木工に金工、そして回路とプリント基板の設計・製作、配線と組立て後の測定器と睨めっこしての調整作業があります。この体力と神経をすり減らしての徹夜作業は地獄の苦しみであり、同時に完成した時の無上の喜びは何物にも代えがたい感覚です。世界に唯一つのシステムという自己満足に浸れます。

Q4. それでは最後に、最近のお気に入りは何ですか？

今の課題は、小規模に近い企業の経営管理システムのサンプルモデルを完成することかな。お気に入りと言うよりは、半分趣味の強迫観念みたいな…。(笑)



古谷 武徳
(ふるや たけのり)

東レコーテックス㈱ 勤務

H23年10月に診断士登録と同時に京都府中小企業診断協会に入会しました古谷武徳です。よろしくお願ひします。

私は、旧河内市に生を受け、小学校入学と共に花園ラグビー場の近くに引越し、関西大学を卒業するまで大阪で過ごしました。いわゆる？河内生まれの平岡育ちです。

大学卒業後は、愛媛県の某大手製紙会社で3年間修業を行い社会人としての基礎を学びました。(某3代目社長と同期になります。)

縁あって現在勤めている東レコーテックス㈱(旧第一レース)にお世話になり、商品開発、製造技術、品質保証を担当してきました。中でも開発業務が約15年と一番長く、いろいろな商品開発に携わってきました。

独自製品が多く特許もいくつか取らせて頂き、知的財産の知識も豊富とまでは行きませんが多少の自信はあります。現在は、電子材料関係向けの商品の製造及び品質保証を担当しており、品質の改善、コスト削減、客先への品質サービスなど苦勞が絶えない状況です。

強みとしては、自社だけでなく協力会社の中小企業の製造業者と接しており中小企業の実態を認識していること。製品開発・品質保証に加え、化学物質管理や製品安全、労働安全、環境、防災など製造業の基本となるところは十分お役に立てるものと考えています。私の基本的な考え方は、TOC理論を参考にしています。スループット会計や思考プロセス、全体最適の考え方に加えて、人間心理を考慮した考え方はユニークで実用的だと考えています。今後もブラッシュアップを図っていくつもりです。

趣味と言うようなものではありませんが、年2～3回の家族旅行が楽しみです。夏はレジャーブル・海水浴、冬はスキー、秋には結婚記念を兼ねて観光旅行に行っています。

最後に私の目標ですが、理想の企業像を体系的にまとめることです。まだまだ力不足ですが、皆様からのご支援を頂き、目標を実現すべく日々努力していく所存ですので、よろしくお願ひします。

平成24年度 京都府中小企業診断協会厚生事業について

当協会の厚生事業は平成20年度より開始し、平成24年度で5回目となり、恒例の事業として定着をしています。協会の各種研修事業とは異なり、日頃の運動不足の解消も狙いとし、レクレーション要素の高い行事を企画しています。

会員同士が気楽に懇親を深めること、および何らかの新しい見聞ができることを基本にしています。また、全会員が参加できるように実施曜日は、土日に設定しています。京都近隣で意外に訪れていない観光地、美術館、社寺仏閣とし、午前は見聞を中心、午後に懇親会を行っています。

これまでの実績を簡単に紹介しますと、平成20年度は、源氏物語千年紀に関連して宇治源氏物語ミュージアム周辺散策。平成21年度は、NHK大河ドラマ坂本龍馬にちなみ、伏見寺田屋周辺の散策。平成22年度は、紅葉の名所光明寺および長岡の勝龍寺城公園等の散策。平成23年度は、親鸞聖人750回大遠忌にちなみ「龍谷ミュージアム」等の観光を行いました。

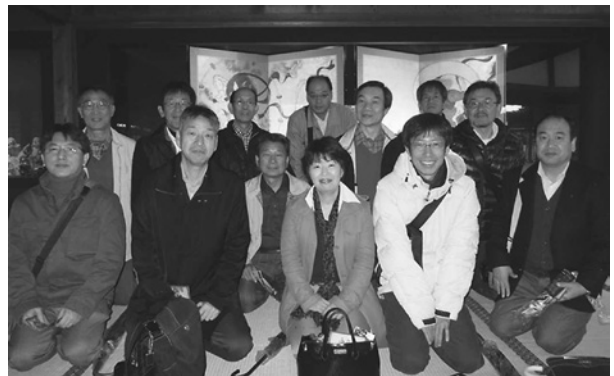
今年度は、大河ドラマ「平清盛」にちなみ、六波羅、四条付近で京都の中心に近いがゆえに案外訪れない名所を組み合わせ、11月19日（土）に実施しました。参加者はベテラン会員、若手会員、女性会員等16名で、幅広い層の参加を得ました。

当日、定刻11時に「清水五条」駅に全員が集合し、平家ゆかりの「六波羅蜜寺」に向いました。丹塗りの本堂は鮮やかであり、宝物館には

この寺を開創した空也上人立像、穏やかな顔で経を読む平清盛坐像等の重要文化財を鑑賞しました。また、12年に一度開帳される本尊国宝十一面観世音立像を拝むことが出来ました。次の建仁寺では、平重盛の六波羅邸の門であった勅使門、国宝風神雷神図屏風、法堂の天井の迫力のある双龍図等を鑑賞しました。

午後の部は、場所を京都四条の老舗「レストラン菊水」に移し、懇親昼食会を行いました。藤井常任理事の司会のもと、山脇会長の挨拶、山崎相談役の乾杯の音頭でスタートしました。近況、趣味、現在の仕事の状況、今後の動向、目指したい方向など会員同士で情報等を交換し、また楽しく懇談しました。おおいに盛り上がる中、上田副会長の締め的一本締めを行い、無事終了しました。

次年度も、会員皆様方の積極的な参加を是非お願いします。
(小宮山衛)



写真：建仁寺 風神雷神図屏風（複製）前

編集後記

年末を迎え、寒い日が続いています。この時期の朝は冷え込みが強い上、日の出の時刻も遅いため、夏に比べて起床が億劫だという方も少なくないのではないのでしょうか。しかし、冬の晴れた朝の澄み切った空気はピーンと糸を張ったような心地よい緊張感があり、「今日も一日頑張ろう」という気持ちにさせてくれます。

またも激動の年となった今年もあとわずか。間もなく新たな年がやってきます。1年後、平成25年を「良い年だった」と振り返れるよう、冬の朝の空気のような緊張感を持って一つひとつの事に当たりたいと思っています。

(足立早恵子)

行事予定

- 1月11日（金） 新年祝賀会
- 2月9日（土） 会員交流会

診断京都

No. 101

2012年12月発行

一般社団法人京都府中小企業診断協会

〒600-8815 京都市下京区中堂寺南町134番地
京都リサーチパーク ASTEM棟 301号室

TEL (075) 325-5731

FAX (075) 325-5675

メールアドレス info@shindan-kyoto.com

ホームページ <http://www.shindan-kyoto.com/>

印刷所 株大気堂 TEL (075) 361-2321

FAX (075) 361-5047